

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2021
3
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第16号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】 CONTENTS

<巻頭言>

- 「令和3年に寄せて」 (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 木下 善久) …………… 1
「農家の方々に頼ってもらえる試験場を目指して」
(和歌山県果樹試験場 場長 上野山 靖司) …………… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

時代に適応する農業 ～魅力ある農家に～

(紀美野町 地域農業士 舟底 秀弥) …………… 3

次世代に続く農業

(紀の川市 指導農業士 長谷川 美枝) …………… 5

適地適作を見つけて！

(かつらぎ町 指導農業士 尾西 智子) …………… 7

本物の味を求めて おいしいみかんで消費者を笑顔に

効率化、省力化でゆとりのある農業を

(有田川町 指導農業士 山崎 尊宏) …………… 9

女性ならではの視点で ～どこまでも“おいしい”をめざして～

(由良町 指導農業士 片山 綾子) …………… 11

パイロット園での楽で効率の良い農業を

(田辺市 指導農業士 田中 幹雄) …………… 13

<農業に懸ける想い>

若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

新たな農地の価値を探す

(海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会 中西 康介) …… 15

変化の中での果樹栽培経営

(紀の川市 地域農業士 藺田 昌也) …………… 16

モデルチェンジへ

(かつらぎ町 地域農業士 竹本 佳充) …………… 17

好きな農業を続けて行くために

(湯浅町 青年農業士 山崎 行晃) …………… 18

楽しく健康に生きる農業を目指して

(みなべ町 青年農業士 藤川 雅史) …………… 19

ガーベラ栽培をもっと楽しみたい！

(白浜町 青年農業士 西浦 健太) …………… 20

<役立つ情報、試験研究レポート>

農産加工品の開発にチャレンジしてみませんか？

(工業技術センター 食品開発部 主査研究員 貴志 学) …………… 21

収穫期のウンシュウミカンを加害するハナアザミウマの防除対策について

(果樹試験場 環境部 研究員 松山 尚生) …………… 23

低夜温管理でも収量が多いスターチス新品種

(農業試験場暖地園芸センター 育種部 主査研究員 岡本 崇) …… 25

ウメ「南高」のカットバックおよび摘心処理による青梅生産性の向上

(果樹試験場うめ研究所 主査研究員 城村 徳明) …………… 27

和歌山県におけるスマート農業の取組

(経営支援課 普及班 主任 土田 靖久) …………… 29

< 県農林大学校学生です。 >

農学部 1 年生の自己紹介&近況報告（第2回）	33
--	----

園芸学科

堀 希 会 前 田 雄太郎 前 山 卓 巳 松 野 慎

松比良 大 亮 森 脇 諒

アグリビジネス学科

柿 本 幸 星 白 江 優 作 高 橋 優 華 安 村 萌 生

< 地域の逸品 !! >

農業士が自慢の地域の隠れた逸品を紹介 !!

緑色を保持したキウイフルーツ加工品（紀の川市 指導農業士 中浴 泉）	36
--	----

有田市認定みかんジュース「K&K Citrus Farm」プレミアムみかんジュース （有田市 地域農業士 成川 浩二）	37
--	----

農業士女性部会員による白干梅、梅酢を使った梅料理レシピ！ （田辺市 指導農業士 橋坂 佐都美）	38
--	----

< 和歌山県からのお知らせ >

県農林水産業のリーダーを認定（和歌山県農林水産部経営支援課）	39
--------------------------------------	----

インターネットを利用した部落差別の解消を推進します

～「和歌山県部落差別解消推進条例」を一部改正しました～

-STOP! コロナ差別 - 誹謗中傷等が行われない社会の実現を目指します

～「和歌山県新型コロナ誹謗中傷対策条例」を施行しました～

（和歌山県企画部人権政策課）	42
----------------------	----

クビアカツヤカミキリの早期発見！もも・すももの樹が被害される！

（和歌山県農林水産部農業環境・鳥獣害対策室）	43
------------------------------	----

巻頭言

「令和3年に寄せて」

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 木下善久



早いもので、令和も3年になります。ちょうど1年3か月前の今頃、中国で新型コロナウイルスが発生し全世界に広がりパンデミックを起こした事により、東京オリンピックは延期になり、全世界で感染者の死者が発生し、経済がボロボロになるなど誰が予想したのでしょうか？

テレビのニュースはコロナばかりであり、2月からは飲み会（歓送迎会、総会等の後の懇親会、忘年会）、視察研修は一切なくなり、さみしい1年だったと思います。

この寄稿文が載るころには、ワクチンの接種が始まり、オリンピックも開催か中止かが決まっていることでしょう。

令和2年は、もし新型コロナウイルスが、発生していなければ東京オリンピックが開催され、インバウンドにより旅行者が増え、日本経済はウハウハになり、農産物も売れて売れて我々農家も潤っていたと思います。

しかし、コロナ禍により経済はガタガタ、また、天候不順による不作がありました（野菜においては、台風の上陸が無く昨年の年末は豊作貧乏になりました）。

私は、柿を中心（経営面積の7割）に、みかん、キウイフルーツ、梨を栽培していますが、昨年は柿

の販売単価が、ここ数年無いぐらい良かったと言えます（JA紀北かわかみで、たねなし柿の出荷数量は前年比97%、販売単価は121%、富有柿の出荷数量は前年比61%、販売単価は137%でした）。

但し、私の園地では肥大が悪くコンテナ数にしたら、6～7割位だと思います。

特に富有柿は毎年、2L～3Lサイズが収穫出来るように作っていましたが、今年はL～2Lサイズの収穫になり、宅配では、3Lを断ることになりました。天候不順によるものですが、少しへこみました。

令和3年（2021年）は、コロナ禍が終息し、昨年の反動で景気が良くなると言われていますが、果たしてどうなるか？また、農家である以上、天候が作物を作る上で一番問題になると思います。

コロナ禍も終息し、台風の被害も無く、天候も平年並みに成る事を祈るばかりです。

巻頭言

「農家の方々に頼ってもらえる 試験場を目指して」

和歌山県果樹試験場

場長 上野山 靖司



農業士の皆様方には、日頃より地域のリーダーとして和歌山県農業を牽引していただいておりますこと心より感謝申し上げます。

また、果樹試験場の試験研究等にご理解、ご協力いただいておりますことに対しましても厚くお礼申し上げます。

さて、試験場におりますと、農家の方が「この葉（果実）についた病気（虫）はなんなえ？」等尋ねて来てくれます。そんな時、研究員が適切な回答とともに防除方法等もアドバイスさせていただくと帰り際には、「おおきによ！また教えてよ！」と笑顔で帰っていただけます。まさしく、試験場は現場に密着していると実感するときであります。

こうしたことから、試験場は、現場に近く、身近な存在でなければなりません。また、敷居が低く、誰でも気軽に来てもらえるところでなければなりません。残念ながら、昨今は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、従来のように大勢集まったの試食等のイベントはしづらい状況ですが、今までと同様にお尋ねいただきたいと思います。

また、農家の方々に頼ってもらえる試験場であるためには、研究員は試験研究のスキルアップはもとより、農家の方々が何を求めているか常にアンテナを高く張り巡らし、独りよがりの研究にならないよ

うに気をつけなければいけません。そのためには、産地に出向き、農家の方々のご意見に真摯に耳を傾け、農家の方々の役に立つ試験研究のテーマを追求しなければなりません。決して、研究のための研究であってはなりません。農家あつての試験場です。

私たち、果樹試験場の研究員は、常にそのことを肝に銘じ、日々、業務に努めているつもりですが、もし、農業士の方々にとって、研究の内容が分からなかったり、「果樹試験場は、農家の役に立つ研究をしていないな」と思われることがございましたら、何時でもご意見をいただきたいと思います。果樹試験場にお越しになるのがご面倒であれば、研究員が現場に出向いて皆様とお会いする機会もございますので、その際にでも何なりと意見交換させていただきたいと思います。皆様の貴重なご意見が私どもの成長につながるとともに、和歌山県の果樹農業発展につながるものと確信しております。果樹試験場の門戸は何時でも開いていますので、気軽に来場していただけたらと思います。

今後とも和歌山県の果樹生産振興に努めて参りますので、貴重なご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の農業

時代に適応する農業 ～ 魅力ある農家に ～

紀美野町 地域農業士

舟底秀弥



1. はじめに

私はながみね農業協同組合を退職すると同時に、平成14年に就農しました。就農後は、指導農業士であった父から栽培技術について教わりながら、地域の出荷組合に参加し、農業経営をしています。平成24年には地域農業士となり、現在は温州みかんを主とした柑橘類（250a）と、水稻（50a）を栽培しています。

2. 農業経営の特徴

柑橘栽培では、父の代から続いている「安全安心」という消費者のニーズに応えるため、エコファーマーとして農薬と化学肥料の低減に取り組んでいます。農薬散布は手散布での2回とし、慣行栽培の3分の1以下に抑えています。また、肥料は魚粉を主とした100%有機質肥料を使用しています。



フォークリフトによる作業

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘類	250a
極早生温州	40a
早生温州	120a
中生温州	50a
はっさく	20a
ネーブル	20a
水稻	50a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用（収穫時）	6人

就農時、販路は1つだけでしたが、様々な状況に対応できるようリスク分散を図るため販路を拡大し、現在は3つの販路で出荷しています。契約栽培が出荷量の約半数を占めているため、販売価格が安定しています。

また、農作業の効率化や作業中の事故防止を図るために、大半の園地に園内道の整備を行うとともに、選果作業から出荷に至るまでのコンテナの運搬回数を減らすため、15年前にフォークリフト、3年前にコンテナクレーンを導入しました。そのおかげで、私自身もそうですが、高齢である父親も楽に作業ができています。

水稻栽培では作業の省力化を図るため、2年前に中山間地域直接支払制度を利用し、農薬散布用ド

ローンを導入しました。ドローンの操縦は手動で、水田1枚あたり5分程度で散布を終えることができるので、非常に作業時間の短縮につながっています。昨年からは周辺農家の農薬散布の請負を始め、今後可能な限り面積を広げていきたいと思っています。



ドローンによる農薬散布

3. 今後の経営方針

現状の栽培面積を維持しつつ、作業性の悪い園地の代わりに、農地中間管理事業等を活用し、条件の良い園地を借りることで、園地の集約化や作業性の向上を図っていきたくと考えています。また、近い将来、自動草刈り機などのスマート農機の普及が現場で始まった際には、いち早く導入できるように園地の緩傾斜化や園内道の整備を段階的に進めていく予定です。

さらに、近年は地球温暖化の影響などによる長雨や大型台風、夏場の高温等が頻繁に発生し、みかん栽培が困難になってきていると感じています。そこで今後は、温州みかんだけでなく、現代の気象条件にも対応できる香酸柑橘等の栽培にも取り組んでいきたいです。



整備された園内道

4. おわりに

私の住む地域では農業者の高齢化や担い手不足により、農業を継続することが困難になり耕作放棄地が年々増加しています。このような中、地域農業士としてスマート農業をいち早く導入することで、他の農業者にもスマート農業の魅力を伝え、地域の農業を守っていきたくと考えています。若い農業者の方にも、スマート農業に興味を持っていただき、新規就農者の増加に少しでも貢献できればと思っています。



コンテナクレーンによる選果

私の農業

次世代に続く農業

紀の川市 指導農業士

長谷川 美 枝



1. はじめに

私は、結婚当初は保育士をしていましたが、次女の出産を契機に退職し、子育てに専念をしました。その頃は、夫がサラリーマンをしながら手伝うだけだったので、農業には全く関心がありませんでした。しかし、子育てをしながら時間に余裕が出来てきた頃、両親の手伝いをしていくうちに、自分が出来る農業をしたいと思うようになりました。

当時、旧貴志川町で農業改良普及所（現：那賀振興局農業水産振興課）が開催していた「みのり講座」に参加し、勉強していくうちに、農業に取り組んでみたい気持ちが強くなり、平成5年に就農しました。

最初は、友達が花（ストック）の栽培している事から花栽培を始めましたが、ハウスの向きが悪いのか思うように栽培できず、値段の良い時期に出荷できませんでした。そこで、普及所に栽培品目の相



いちごの高設栽培

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	30a
ハウスいちご	10a
万願寺とうがらし	2a
その他野菜	5a
○労働力	
家族	3人

談をしたところ、両親が当時栽培していたいちご（「とよのか」の時代）のハウス栽培に変えることとなったのが25年前です。

当初は、土耕栽培で行っていましたが、畝たてや収穫作業がきつかったことから、作業性が良く、栽培管理がしやすい高設栽培に切り替えて栽培を行っています。その頃から娘が農業に関心を持ち始め、今ではいちご栽培を一緒に日々取り組んでいます。

2. 農業経営の特徴

いちご「まりひめ」「紀の香」、水稻「きぬむすめ」を中心に野菜の栽培をおこなっています。

春～秋の栽培は、万願寺とうがらし等の露地野菜の栽培を中心に、水稻といちごの苗づくりに取り組んでいます。

特に気を付けて作業を行っているのは、いちごの苗作りで、ハダニ類や炭そ病（特に「まりひめ」）

の病害虫対策ですが、うまくいかないこともあり苦
労をしています。

秋～春の栽培は、いちご（「まりひめ」、「紀の香」）
の栽培を中心に、ブロッコリー、だいこん等の露地
野菜の栽培をおこなっています。

いちご栽培では、高設栽培への切り替えや娘が一
緒に作業を行うようになったことから、作業効率が
よくなり、市場を通しての契約出荷が出来るよう
になりました。

また、直売所へのお荷や、地元菓子職人との連携
による「たまカフェ（貴志駅）」での苺パフェの販
売（4月～5月限定）や量販店でのいちごの販売も
増え、安定した販売に取り組んでいます。



たまカフェでの苺パフェ

3. 今後の経営方針

今まで築いてきたいちご栽培の知識を活用し、栽
培管理を行っていききたいです。特に「まりひめ」は
炭そ病に弱く、苗の育成には気をつけていても、毎
年思うようにはいかないこともあり、今後は、病気
に強い品種の栽培を増やした方が良くと思い「紀の
香」の栽培も始めています。

一人で作業していたときは、葉かき・摘蕾等に十
分に手が回らず、生産が思うようにならずに苦労を
しましたが、娘と一緒に作業を行ってくれ、ハウス
全体の管理に手が回るようになったことから、安定
した大玉で高品質ないちご生産を行っていきたく
と考えています。



量販店でのいちご販売



いちご「まりひめ」

4. おわりに

高設栽培の良い点を活用するとともに、栽培管理
全体に十分気をつけ「まりひめ」DX用の大玉、高
品質生産に向けて娘と一緒に楽しく農業していき
たいです。

適地適作を見つけて！

かつらぎ町 指導農業士
尾西 智子



1. はじめに

私は、22歳で嫁いで来ました。10年程は、3人の子育てで、義父母の手伝い程度でした。

結婚当初は、富有柿、みかん、水稲が主な栽培でした。秋には、串柿も作っていました。夫は、別の仕事をしていたので、休みの時に手伝う程度でした。秋だけは、休んで串柿を作っていました。

2. 農業経営の特徴

私の所は、用水が少なく飲み水も不足した所なのですが、今は水道になっています。田植えの時は、みんな一斉になるので用水が不足し大変苦労しましたので、水稲はやめて水田へ串柿に使う四ツ溝柿を植えました。

富有柿は、収穫の時期が串柿の時期と重なるので、30年程前に高接ぎをしてもらい刀根早生柿に変えました。

みかんの収穫も串柿が終わってからとなり、お正月に入るので、梅に変えました。

なるべく夏果樹と刀根早生柿中心になるようにと8年程前から大石早生も栽培を始めました。山の上なので、みんなと収穫時期がずれているので、今の所いいみたいです。

獣害対策として柵を張ってあるのですが、カラスに頭を悩ましています。テグスを引いてみたり、カラスのような鳥の模型をぶら下げたりして工夫して

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	80a
〔刀根早生柿	40a〕
〔四ツ溝柿	40a〕
梅（南高）	20a
すもも（大石早生）	15a
○労働力	
家族労働力	2人
雇用労働力	串柿 10人～13人
	あんぽ柿 5軒協同100人

います。

果樹園は、緩傾斜なのでナギナタガヤを生やしています。草刈りの手間が少なくなるし、6月頃には全部枯れてしまうので、除草剤は、所々散布するだけで済みます。



串柿皮むき等作業

3. 今後の経営方針

串柿もだんだん数量が減少しつつあります。これも若い人が、あまりお正月にお供えをするという習慣がなくなりつつあり、時代の流れで仕方がない事だと思っています。

それで、今までしているあんぽ柿に力を入れようと思っています。

あんぽ柿は、もう25年程前から始めています。最初は、なかなかうまくいかなかったのですが、今は、5軒協同であんぽ柿を作っています。昨年は、新型コロナウイルスが猛威を振っていたので、コロナ対策に大変苦労しました。除菌から始まり、なるべく大勢にならないように時間をずらして休憩を取ったり、空気清浄機を入れるなど色々工夫して、雇用者に来て頂きました。

あんぽ柿も色々な用途に使って頂けるように工夫しています。また、柿の規格外も加工をしてチップ柿などに利用しています。

4. おわりに

夫も私もまだまだ農業を頑張るつもりですが、だんだん体力の衰えを感じ始めています。長男の嫁さんも手伝ってくれるようになり大変助かっています。この頃、長男も休みの時は、農業に力を入れてくれるようになりました。

もう少しの間、長男夫婦に経営が変わる日まで、夫と頑張るつもりです。

最後になりましたが、私も今年の3月で指導農業者の定年を迎える年になりました。皆様の良いご意見や研修への参加、いろいろなことを勉強させて頂きありがとうございました。

昨年から、新型コロナウイルスで今までにない苦労をされていると思いますが、皆様、身体に気を付けて、コロナに負けないように頑張りましょう。



串柿干し作業



串柿干し場

私の農業

本物の味を求めて おいしいみかんで消費者を笑顔に 効率化、省力化でゆとりのある農業を

有田川町 指導農業士

山崎 尊宏



1. はじめに

私が就農したのは、昭和 53 年で県の農業大学校を卒業後、両親の希望もあり就農しました。

当時は夢と希望を持って就農したものの、みかんの生産量は 360 万トンと生産過剰による価格の低迷が続き、頼みのハッサクもオレンジの自由化により価格が下落して行きました。このため、スモモ（大石早生）や切り花を取り入れ、みかんと複合経営に取り組みましたが、両親の高齢化や父の病により労力の限界を感じ、複合経営を断念して柑橘主体の経営に戻り、当時まだ珍しかった不知火の無加温ハウス栽培に取り組みました。

当時はまだ苗木もなく、熊本県の知人に穂木を譲っていただいてみかんの木に高接ぎをしておいた栽培だったので栽培形態もわからず、樹勢を維持するのが大変でした。その後

ウイルスフリーや M16 といった優良な苗木が育成され、とても栽培しやすくなり、今は 10a 当たり 5 トンを目標に取り組んでいます。

2. 農業経営の特徴

私の家では父の代より北欧ノルウェーの海草と有機質肥料生産資材を使ってみかん栽培に取り組んでいます。この海草は豊かな大地の栄養分が流れ込んだ大海に育ち、カルシウム、鉄分、カロテン、ヨード等多くの成分を含んだ特殊な海草で、長年に亘り使用することでその効果を実感しています。配合肥料に混ぜて施用し、液肥を散布することで土壌改良

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	180a
〔極早生〕	20a
〔早生〕	120a
〔普通〕	40a
不知火	25a
〔ハウス〕	10a
〔露地〕	15a
スモモ	4a
○労働力	
家族	2人
雇用	3～4人



不知火のハウスと露地栽培

とともに品質的にも糖度と酸度のバランスの取れた「こく」のあるおいしい味に仕上がります。同じ取り組みをするグループで年に数回、園地回りや勉強会なども行い、情報交換も行っています。

以前から進めてきた改植も進み、順次成木化して来て今後が楽しみです。改植の際には樹間を広くと

り、作業道をつけ、1園地1品種を目標に植栽しています。薬散は樹間が広いので、手散布中心で行っています。園地の半分近くにはスプリンクラーを設置していますので、今後はポイントでクーラー防除も取り入れ、省力化を図りながら効果的な防除を行っていきたくと思っています。

剪定は不知火の出荷が3月まで続くため、縮伐や間伐などノコギリ中心の剪定を行っています。また、除草剤の使用を減らすため、年2回程度園地内の草刈りを行っています。

3. 今後の経営方針

販売は市場出荷と産直が中心ですが、市場の価格が安定している間にインターネットでの販売も始め、販路の拡大を進めています。産直は口こみで広がりほとんどがリピーターです。産直やインターネットを通じて消費者との距離が縮まり、消費者の声を直接聞けることで経営に活かしていけます。手紙やファックス、インターネットを通して喜びやねぎらいの言葉をいただくと、来年もがんばろうと大きな励みになるとともに、消費者が食べて笑顔になってもらえるようにおいしいみかんづくりに取り組んでいきたいと思っています。

改植も進み、選果場も広くしたことによって以前に比べて作業がたいへん楽になりました。今後も省力化、効率化を進め、ゆとりのある農業、そして、おもしろくて楽しくて儲かる農業を目指したいと思っています。

今は家内と二人で、収穫時には皆さんに助けをいただきながら作業に励んでいます。将来、息子も農業をやると言っています。

今は今後の経営について話し合い、夢を膨らませています。

4. おわりに

若い頃は農業は3Kの代表的な職業に思われ、何か引け目を感じることもありましたが、年を重ねるにつれ、農業の力を深く感じられるようになりました。



樹間が広く、軽トラックが奥まで入る園地づくり



広い選果場

みかんは1階で選果、
不知火は2階で箱詰します

特に今年のようなコロナ禍において自然の中で仕事のできる農業は最高の職業だと思います。

現在、どの地域においても高齢化が進み、廃園や荒地が増える中で私の地域においても農道がないためにやむをえず廃園が増えているみかん山があり、今、若い方達と話し合い、関係者の方々に協力いただき、農道をつけて再生することに取り組んでいます。温暖化によるいろいろな災害やコロナウイルスのような今まで経験したことのない問題もありますが、何事も前向きに取り組み、地域の方々と協力しながら地域の農業を守っていきたくと思っています。

私の農業

女性ならではの視点で ～ どこまでも“おいしい”をめざして～

由良町 指導農業士

片山 綾子



1. はじめに

私が結婚を機に昭和60年より農業を始めた頃は、ハウス栽培（メロン、トマト）、露地野菜（紀州うすい）、みかん（温州みかん、八朔）、水稻を栽培していました。

当時はわからないことばかりでしたが、先輩方のご指導のもと農業のいろはが理解でき、作物の成長や収穫が楽しみになってきました。私の育てた作物が消費者から「おいしい」と言われると、農業に携われた幸せを感じました。

地域農業士に認定されたことを契機に、もっと農業の勉強がしたくなりました。そこで、平成29年第4期女性農業次世代リーダー育成塾（農林水産省主催）に応募し、毎月2日間、東京で実施される研修に参加しました。全国の45名の仲間たちと一緒に勉強した経験は、私の宝物となりました。

全国から集まった若い女性農業者らは、生き生きと農業の楽しさを語り、その姿に共感するとともに、自分自身の励みにもなり、良い刺激を受けることができました。この貴重な経験が、女性農業者としてこれからの農業にどう関わっていくのかを考えるきっかけとなりました。農業は“男性が中心で女性が支える”という私のイメージが覆されることとなり、女性農業者の活躍が、これからの農業に必要な不可欠ではないだろうか考えるようになりました。

2. 農業経営の特徴

現在は、ハウスでミニトマトを栽培しております。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト（ハウス）	20a
温州ミカン	100a
水稻	80a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	7人

8月に定植し、9月末から翌年の6月まで収穫し、ほとんどJAへ出荷しております。病害虫による被害で栽培が思うようにいかず苦しんでいますが、先輩方から助言を受けながら頑張っています。

また、一部のハウスでは、雨よけミニトマトを栽培しています。4月に定植し6月末から収穫を始め、台風でダメージを受けた時点で終了となります。夏の暑い時期ならではの病気や傷みがありますが、工夫しながら一年中ミニトマトが収穫できるようにしています。

温州みかんは、早生と中生を栽培しています。春に施肥をし、除草、消毒、摘果の作業が続きます。

8月末にはマルチシートを敷設し、収穫までは水分をカットすることにより、減酸を抑え糖度の向上を図っています。この水分管理が、おいしいみかんを作るためには必要で、腕の見せどころです。果実は、JAのゆら撰果場に出荷していますが、最近はJA産直店へも出荷しています。



温州みかんの収穫

水稲は、米穀店にほとんどを出荷しています。わが圃場は、山里という地形の関係で小さい段になっている田んぼが多く、作業時間がかかります。

しかし、その土地の土質なのか、買っていたいた方から「おいしい」と言っていたことが多かったです。周辺の水稲耕作者が、だんだん高齢化してくるということもあり、水田水路管理のため、放棄地を作らないように、耕作を引き受けることもありません。

また、由良町のPRになればと考え、中国から町内の興国寺に伝わり、醤油が生まれるきっかけとなったとされる金山寺味噌を製造し、JAの産直店で販売しています。



金山寺味噌

3. 今後の経営方針

今後の方針として、自農園の経営を向上させたいと考えています。今までは、無我夢中で働くという形で進んできましたが、これからは、労働力だけに

頼るのではなく、省力機械や設備の導入や生産性向上のための改善に取り組むことで収入アップを目指していきたいと思っています。労働力に関しては、臨時雇用の方々の高齢化が進んでいるため、若い方へのアプローチと人材育成に取り組みたいです。今、地域の農業従事者の高齢化が課題となっています。放棄地とならないように、若い農業士の方たちと活発に話し合い、産地の維持が出来ればと考えております。

指導農業士となり、いろいろな研修や先輩方から沢山学ぶ事が出来ています。その経験を励みに、これからも自農園の経営及び地域の農業と関わりながら、より一層農業に邁進していきたいと思っています。

4. おわりに

平成29年から由良町農山漁村女性の日推進会会長として、重要な担い手である女性が地域で活躍できるように応援しています。

昨年11月には、「未来の由良町の女性の活躍」と題して、山名町長様と対談させていただきました。女性の視点を取り入れないと商品が売れない時代でもあることから、第1次産業の女性が地域で活躍できるような環境づくりが不可欠です。

今後の女性の活躍に期待するとともに、一人一人がコミュニケーションを図りながら、課題解決に向けて皆と一緒に頑張っていきたいと考えています。



由良町長 山名様との対談

パイロット園での楽で効率の良い農業を

田辺市 指導農業士

田 中 幹 雄



1. はじめに

私は昭和 50 年に測量専門学校を卒業後、8 年間大阪の測量会社に勤め、29 歳の時に叔父の家を継ぐため、田辺市中三栖に戻ってきました。

農業の経験も知識もないまま就農し、義父母や J A の営農指導員、地域の人達に教えていただきながら、今日までやってきました。

就農当時は、青梅や梅干しが高値で取引され、作れば売れる時期が続き、楽しみでした。

2. 農業経営の方針と状況

私が就農した時、義父母が梅を主体にスモモや早生温州ミカンも栽培していました。当時梅は「青いダイヤ」と言われ、小梅が高値で販売され、水田転換園に多く植えられていました。我が家でも小梅が 50a 程あり、朝早くから青採り収穫して、J A へ出荷した後、落ち梅を収穫して、梅干しとして漬け込む作業を夜遅くまでしていました。

私の住む田辺市中三栖地区は、梅干しに一次加工する大規模な専業農家が多く、私も地域の農家に少しでも近づけるように、昭和 63 年に白浜町（旧日置川町）の柑橘パイロット園 2ha を購入し、2 年かけて南高梅に改植しました。

当時は鳥獣害もなく、5 年ほどで収穫量も増えてきたので、これまでの青採り収穫から全量を梅干しとして一次加工することにしました。このため、倉庫が手狭になり、梅を漬けたり干したりする広い倉庫が必要となったので、以前測量の仕事をしていた

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	450a
南高梅	430a
小梅	20a
○労働力	
家族	4 人
臨時雇用（収穫時）	15 人

経験を生かし、自分で倉庫の図面を引いたり、梅を干す台を組み立てたりして、経費の削減に努めました。

倉庫を広くし、大型の選果機やフォークリフトを導入したことで、1 日の収穫量が多くなっても夕方 5 時過ぎには仕事が終われるようになりました。また、パイロット園に園内道を整備して、病害虫防除作業にスピードスプレー（SS）を使用したり、除草作業や肥料散布には乗用型の機械を導入して、作業効率を上げ、さらに改植作業には、抜根や苗の植え付けに小型重機を使用することで、労力の削減を図りました。

収穫した梅を干す作業は 8 月から 11 月まで続きますが、作業後半になると、乾きが遅くなってくるので、5 年前にビニールハウスを建て、現在は天日干しとハウス干しの両方を行っています。また、夏場の暑い時でも快適に作業が出来るように、選別作業場にエアコンを導入しています。



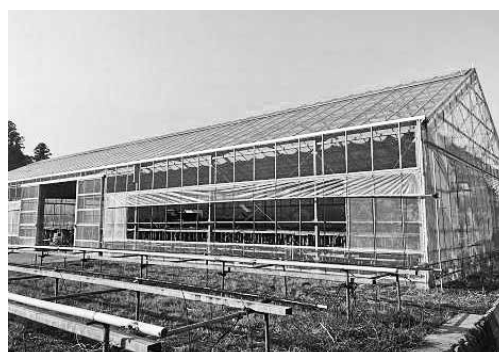
SS による防除作業



乗用型の肥料散布機



小型重機による抜根作業



新設した梅干し用ハウス

平成 30 年にパイロット園の隣接の方から梅畑を譲っていただき、我が家の農地の約 7 割がパイロット園となりました。作業効率が格段に良くなり、優良農地を確保できたことが経営上、一番良かったと改めて実感しています。

3. 今後の経営方針

農地の確保や各種機械等の整備も出来てきたので、これからは現状を維持しながら、老木園の改植を計画的に行い、収穫量を減らさないようにしたり、経営の柱である南高梅の栽培は収穫時期に多くの労働力が必要になるので、小梅を増やして収穫時期の分散を図りたいと思います。

また、南高梅は全量、梅干しに一次加工しているので、青梅の価格が上がれば加工梅として業者に販売し、漬け梅作業を減らして、その分剪定作業を早めたり、機械類も増えてきたので、メンテナンスは出来るだけ自分で行い、さらに経費削減に努めたいと思います。

梅は気候により、収穫量の差が大きい作物なので、これからも手を抜かずしっかり管理していきたいと思います。

4. おわりに

私も 65 歳になり、指導農業士も定年を迎える年となりました。これまで多くの皆様に御指導いただく事ばかりで経営を維持するのに精一杯でした。

梅の生産量も減少する中で、価格も安定してくると思います。今後も梅一筋に儲かる農業をしていきたいです。

子供夫婦も農業を始めて 6 年、後継者として毎日頑張っています。私は趣味の船釣りを楽しみに、子供たちのお手伝いをしていこうと思います。子供たちも守りに入らず、攻めの農業経営をして欲しいと思います。

農業に懸ける想い

新たな農地の価値を探す

海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会

中西 康介



1. はじめに

私は、農家の長男として育ちましたが、田舎コンプレックスが強く大学卒業後は東京で就職しました。仕事の取引先であるJAに足を運ぶうちに、農業の置かれている現状を知り、漠然と農業を何とかしたいと考えるようになりました。また、独立志向があったこともあり就農することを決意し、2年間県外の農業法人で研修を受けたのち、平成23年に実家の農地を継承して、就農しました。

2. 農業への想い・取り組み

私の経営の主力はミニトマトで、JAながみね・ミニトマト部に所属し、「美味房」として出荷しています。「美味房」は化学肥料、農薬の使用回数を減らした特別栽培農産物として栽培しており、「高糖度」「完熟」「房どり収穫」にこだわっています。近年、部会員の高齢化が進んでいるので、新たな部会員を増やしてブランド力を高めたいと考えています。

3年ほど前からブルーベリーの観光農園を始めました。海南東インターに近い立地を活かし、どこかへ観光に行くついでに軽装で体験できる農業です。農業をしたことのない人に収穫体験を通じて農業の楽しさ知ってもらうこと、これこそ農地の持つ価値の1つだと思います。また、ミニトマトの株のオーナー制を取り入れてみたりと色々と挑戦し続けています。

私は、農業の後継者不足の原因は所得が得られないからだと考えています。所得を得られる新しい売り方、人とは違った売り方を日々考えています。農地から得られる価値は農産物売って得られる所得

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト（ハウス）	10a
ブルーベリー（露地）	20a
○労働力	2人



摘蕾中の様子



ブルーベリー園の様子

だけであるという従来の考え方ではいけないと思っています。これからも新たな農地の価値を発掘し続けていきます。

農業に懸ける想い

変化の中での果樹栽培経営

紀の川市 地域農業士

藺田昌也



1. はじめに

私の家は代々続く農家です。昔は水稲（裏作でタマネギ）と八朔の栽培を行っていましたが、現在は、桃・柿・柑橘を栽培している果物農家です。

社会人生活を4年間経験した後に就農し、今年で24年になります。

2. 農業への想い・取り組み

就農した当初は、今ほどインターネットや直売所で販売できる環境は整っていませんでした。市場出荷が中心で、栽培する作物の品種も限られていた気がします。現在は、販売場所の選択肢も増え、栽培する品種も多くなり、春夏秋冬いろいろな果物を栽培することができています。

我が家では、桃で5品種、柿で4品種、柑橘類では8品種の栽培を行っています。季節の移り変わりを感じながら、季節毎に美味しくなる果物の事を考えて作業をするのも楽しみの一つです。

ただ単に、みんなが栽培しているから植えるだけではなく、栽培講習会や剪定作業に参加することにより、栽培作物の選定や栽培方法についての意見交流も、楽しみの一つとなっています。

農作物の販売面では、直売所での出荷説明会や上手に販売をしている人の話を聞き、どうすればより販売量を増やせるのかを自問自答し、新型コロナウイルス感染症の影響により、世の中の形態が変化していますが、農作業をしながら、今回の影響を好機と捉え、経営に活かしていきたいと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	40a
柿	80a
柑橘	60a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人



桃の剪定



柿の剪定

農業に懸ける思い

モデルチェンジへ

かつらぎ町 地域農業士
竹本 佳充



1. はじめに

農家の長男に生まれたことと、父が婿養子に入っ
て守ってくれた農業を、父の代で終わらせる訳には
いかないという思いから、嫌ではあったものの28
歳の時に脱サラし、Uターン、就農を決意。しか
し、常時、親と一緒に居るのが気詰まりだったの
で、全く違う品目を栽培しようと思い、県農業試験
場で一年間研修した後、ハウス10aを建て、イチ
ゴ栽培に着手するも、労力が自分一人だったこと、
初期の設備投資が満足に行えなかったこと等から、
ハウスの建設資金返済終了と共に栽培も止め、親の
果樹栽培に加わることにしました。

2. 農業への思い・取り組み

以前は冬野菜と果樹との複合経営でしたが、果樹
専門に転換し、品目は桃と柿に絞りました。

両品目共に、極早生～晩生までを栽培。出荷前の
家庭撰果を徹底したいため、収穫には他の手は入れ
ず、家族のみで行っています。

数年後には両親がリタイヤしてしまうことを想定
し、近年は園内道の整備と、SSや肥料散布機の導
入など機械化のハード面に注力しています。

課題として、ありがたい事に両親が現役で最前線
の作業をしているため、品目、量、栽培方法等、大
半が親の采配によるものでした。従って、慣行栽培
が前提で、新しい事へのチャレンジが出来ず、無理
や無駄が多いのではないかと思い始めていたこと、
更に私の後継が居ないことも考慮し、家内と二人で
賄えるだけの面積にしたいと思うものの、両親が減

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	
極早生～晩生	60a
柿	
極早生～平無核	180a
干柿用	15a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	8～10人×15日

反を嫌うので、なかなか計画通りには行っていない
現状です。次世代に見合った栽培計画を立て、実行
に移すのが目下の目標です。せめて、雇用の費用分
だけでも栽培量を減らし、面積は維持しつつも無理
のない栽培を目指したいと思っています。



SS



肥料散布機

農業に懸ける思い

好きな農業を続けて行くために

湯浅町 青年農業士

山崎 行晃



1. はじめに

私は、家業である農業が好きで、特に子供の頃から慣れ親しんだみかんづくりを学ぶため、静岡県果樹研究所カンキツ研究興津拠点で柑橘類の栽培に関する基本技術を学んだ後、2004年に21歳で就農しました。

家の農業は、温州みかんを中心とした柑橘類にイチゴ、水稻を組み合わせた複合経営です。柑橘栽培は学校で学びましたが、水稻、イチゴについては柑橘以上に未熟なので、今後、父が熱心に取り組んでいるイチゴ作りについても成長していけたらと思います。

2. 農業への思い・取り組み

近年、梅雨の長雨、夏期の高温干ばつや大型台風など、毎年のように異常気象が起こっています。みかん作りにとって厳しい条件ですが自分が納得できるみかんが作れるように、肥料の質や施す時期を調整したり、早生みかんの一部ではマルチシートを用いて着色促進を図るなど、みかんが元気に美味しく育つ技術を試しているところです。

商品力の向上を狙って、栽培品目（品種）の構成についても見直していて、台風の影響を受けてしまった老木園をゆら早生に改植したり、みかんでは品質の上がりにくいような園地を思い切ってレモンに改植し国産レモンの需要増加に対応できるよう現在の6aを今後さらに増やしていきたいと考えています。また、改植する際はパート従業員の方達も作業がしやすいよう樹間を広く取るようにしたり、収穫がしやすい樹形になるよう工夫して剪定するなど省力化が図られるよう栽培管理しています。

今後は、人口減少などで農繁期の労働力確保がさ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	260a
中晩柑類	40a
水稻	10a
イチゴ	7a
○労働力	
家族	4人
雇用	3人（年末の繁忙期）

らに難しくなっていくと思います。技術の進歩で機械が助けてくれる農作業も増えてきていますので、各地で開催される講習会へは積極的に参加し、我が家の農業経営にも導入できる技術がないか模索中です。これからも、新しい技術の情報収集をしながら、地域の基幹産業である農業を営む一員として長く農業を続けていきたいです。



温州みかんの
管理作業



改植したレモン園

農業に懸ける想い

楽しく健康に生きる農業を目指して

みなべ町 青年農業士

藤川 雅史



1. はじめに

私は高校卒業後、1年間浪人して就農し、20年目になります。

我が家は梅を主体とし水稻の裏作で露地野菜を栽培しています。

農業士会やJA出荷部会等に参加し、色々な農家さんや他業種の人達と交流して勉強させていただいたことを経営に活かせるよう日々実践しています。

2. 農業への想い・取り組み

就農して20年経ちますが、毎年同じような年ではなく、凶作や暴落、病害の発生、今までいなかった害虫の出現などたくさん問題が起こります。

その上、耕作放棄地や後継者や人手不足といった地域全体の問題もあり、農家だけで解決できない状況で、今まで以上に農家と業者と行政との連携が必要になってきています。

そこで、かつては3Kと言われてきた農業の働き方改革を進めていきたいと考えます。

農業をするために生活するのではなく、楽しく健康に生きるため農業をするんだと思えるように、農地の集約化、設備投資、園内道の整備を行い、労働時間の改善、品目・品種の見直し、インターネット等の販売経路の多様化での高収益化、他業種との連携による労働力確保などに取り組み、魅力ある農業経営を行ってまいります。

これからは法人化や特化型農業、新しい働き方、グローバル化に対応していく必要があると考えています。これから農業をやってみようという若い人は、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅（南高）	300a
水稻	35a
ブロッコリー	25a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

高校や大学を卒業してすぐ就農するのではなく、5年ぐらいは外に出て時代の流れや新たな技術を学んでから就農した方がよいと思います。



梅剪定途中の休憩



ブロッコリーの収穫

農業に懸ける想い

ガーベラ栽培をもっと楽しみたい！

白浜町 青年農業士

西浦 健太



1. はじめに

私は高校卒業後、約1年間、アメリカに語学留学し、帰国後、平成14年に19歳で就農しました。

当時から父親はガーベラを栽培していたので、私も一緒にガーベラを栽培するようになりました。

2. 農業経営への想い・取り組み

私の住む白浜町は、温暖で冬の日差しも強く、ガーベラ栽培に適しています。出荷は個選出荷で、関西や北陸地方に全量を出荷しています。市場に出荷出来ない花をどうにかしようと、知人の勧めもあり、数年前から地元の直売所にも出荷しています。

就農した当時は、ただガーベラを収穫して出荷するだけの作業をひたすら行っていました。

平成21年ごろから植え付けたガーベラが病害虫等でバタバタと枯れ始め、出荷が出来なくなり、経営的に行き詰るようになりました。ガーベラの栽培管理は父親に任せきりで、私は父親の言われたことだけをしていたのですが、ある時、愛知県や山口県など県外のガーベラの産地を視察し、品質やハウス環境の違いに強い衝撃を受けました。

それから私はもっと品質の良いガーベラを生産したいと思うようになりました。ただ、父親はこれまでの栽培管理を変えようとせず、意見の衝突は日常茶飯事で、農作業よりも親子喧嘩に体力を使ってしまう日々が続きました。しかし視察でお世話になった生産者の意見を参考に、自分なりに良いと思う方法を取り入れ、徐々に納得のいく栽培管理が出来るようになってきました。平成28年に、親しくさせていただいている愛知県の生産者のアドバイスを受け、その方と同じ規模のガラス温室を新設すること

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ガーベラ	80 a
○労働力	
家族	4人
常時雇用	4人

が出来ました。

最近はホームページを作成したり、苦手なSNSにも積極的にチャレンジしています。また昨年からはガーベラ以外に試験的にイチゴ栽培にも取り組んでいます。

何事もやり始める事に遅すぎるといいとは思いません。時代の流れに柔軟に対応しながら、ガーベラ栽培をもっと楽しみたいと思います。そして地域農業を支え、新規就農を目指す方たちに少しでも役に立つ情報を発信していければと考えています。



出荷前の
ガーベラ

イチゴ栽培にも
挑戦！



農産加工品の開発にチャレンジしてみませんか？

工業技術センター 食品開発部 主査研究員 貴志 学

1. はじめに

和歌山市小倉にある和歌山県工業技術センター（写真1）を御存知でしょうか？当センターでは化学や機械などの工業分野に限らず、多くの県内製造業に対する技術的な支援を行っています。その中でも食品開発部では和歌山県内の食品製造事業者の技術的なサポートだけでなく、和歌山県の特産農産物の新しい加工法の研究を行っています。本開発部にはバイオテクノロジーや食品成分の分析評価を専門とする職員以外にも、県農学職の研究員が常駐し、農林水産業従事者の6次産業化に向けた加工品開発や技術支援にも取り組んでいます。



写真1 和歌山県工業技術センター外観

2. フードプロセッシングラボ

食品開発部では2017年にセンター内に散在していた食品加工に関する機器を集約、また施設の一部を食品加工専用の試作室として改築し、フードプロセッシングラボ（以下、フードラボ；写真2）を立ち上げました。フードラボでは、様々な加工機器による試作品開発を同時に行うことができ、出来上がった試作品の成分分析や評価も併設する開発室で行うことも可能です。フードラボの加工機器は、食品製造事業者が一般的に使用している機器に加え、過熱水蒸気発生装置や噴霧乾燥装置（液体を粉末化する装置）など特殊な装置も導入しています。初めて農産品の加工品開発に挑戦される方には十分な装置が揃っていますが、今後も要望の多い機器を導入して、ラボ機能のさらなる充実を図っています。

3. 農産加工品のアイデアを形にし、課題を洗い出してみませんか？

フードラボは、新しい加工品の試作と評価だけに留まらず、下記のようにいろいろな課題解決を目的として利用していただいています。

下に利用例を示します。まず①のように、下ごしらえを終えた原料を持ち込まれて新製品の試作に來られる方がいます。次に②のように、今まで手作業で作っていた前処理（皮むきや種取りなど）を加工機器に置き換えた場合の原料品質や作業効率、また原料に対する加工品の歩留まりや副産物（搾りかす等の残渣）などのデータ取得を目的とされる方もいます。また③のように、自社に新しく製造機器を導入するのではなく、外部の加工業者に生産を委託する際の条件出し（各原料の分量、温度、処理時間などの条件）の調査を目的とされる方もいます。

○フードラボの利用例

- ①新しい加工方法による製品の試作と評価、商談用の試作品製作
- ②加工機器利用によりスケールアップした場合の加工品質や効率化の評価
- ③外部に加工委託する場合の条件出し（条件決定）

4. おわりに

「こんな加工品を作りたいが、製造するのに必要な機器を試してみたい」、また「生産量を増やしたいが、家庭用の調理機器では間に合わなくなってきた」のようなとき、こちらに御相談いただければと思います。ただし、こちらでお手伝いできるのはあくまで技術的支援のため、農産品をどのように加工したらいいかといった経営上の相談はお受けしておりません。なお、フードラボで製造した試作品についての販売はできません。

また自社で製造した加工品の販売を始める場合、賞味期限の設定や成分表示、また販売許可の手続き等が必要となります。そのような6次産業化における加工品製造や手続き上の課題について、県内各地でセミナーを開催する予定です。興味をお持ちの方は御参加ください。



写真2 フードプロセッシングラボ食品加工室

連絡先

和歌山県工業技術センター（和歌山市小倉60）
食品開発部 加工技術担当 Tel：073-477-1271（代表）

試験研究レポート

REPORT

収穫期のウンシュウミカンを加害するハナアザミウマの防除対策について

果樹試験場 環境部 研究員 松山 尚生

1. ハナアザミウマによる被害について

近年、収穫期の早い極早生や早生のウンシュウミカンでハナアザミウマによる被害が増加しています（図1）。果実が加害されると果皮が白くカスリ状になり、ひどい場合は腐敗するため、品質低下や収量の減少につながります。

本研究では、県内におけるハナアザミウマの生息植物や果実での生息状況、有効な防除薬剤を明らかにしたので報告します。

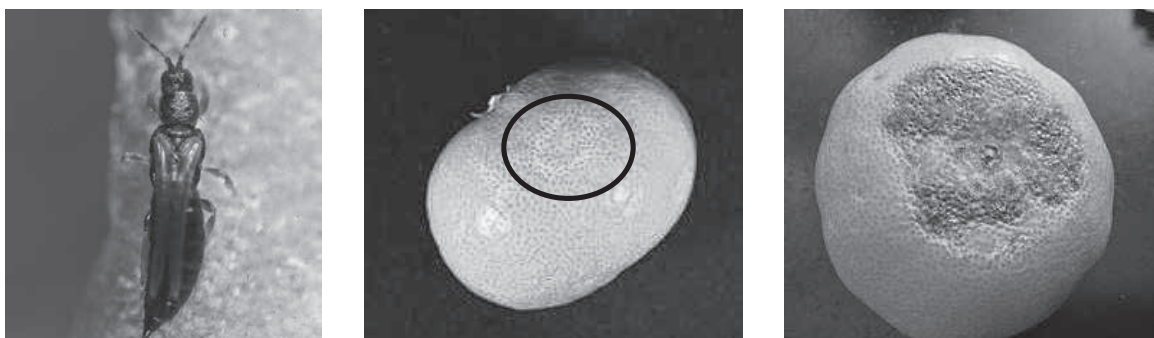


図1 ハナアザミウマとその被害（左：雌成虫、中：果実の被害、右：加害による果実の腐敗）

2. ハナアザミウマの生息植物

ほ場内外に自生している雑草からアザミウマ類を捕獲して調査したところ、セイタカアワダチソウにハナアザミウマ成虫が多数認められました（図2、図3）。ハナアザミウマの捕獲数はセイタカアワダチソウの開花初期から満開期にかけて多くなりました。捕獲数が増加した時期からやや遅れて雑草地と隣接したウンシュウミカンほ場内のトラップにも多く誘殺されたことから、セイタカアワダチソウがハナアザミウマの飛来源であると考えられました。



図2 満開期のセイタカアワダチソウ

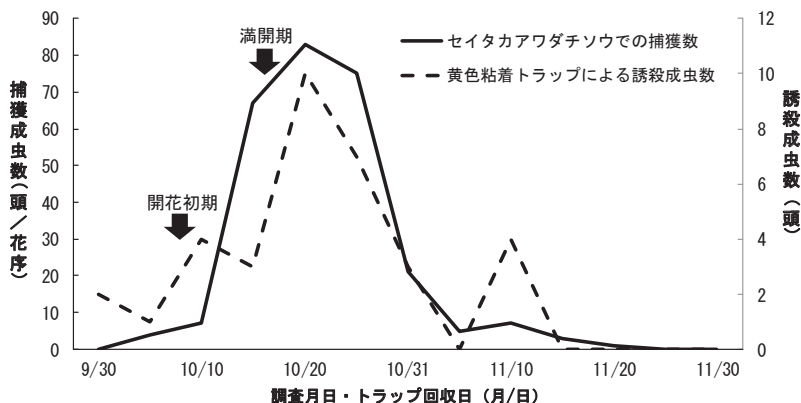


図3 ウンシュウミカンほ場周辺のセイタカアワダチソウでのハナアザミウマの捕獲数とほ場内の黄色粘着トラップによる誘殺成虫数（2018年）

3. 果実における生息状況

極早生ウンシュウミカンの着色期前後に果実におけるハナアザミウマの生息状況を調査しました。着色期の10月上旬から生息が認められ、10月中旬に生息数がピークとなりました（図4）。特に樹冠の赤道部より上部の果実同士が接した隙間に多く生息していました。

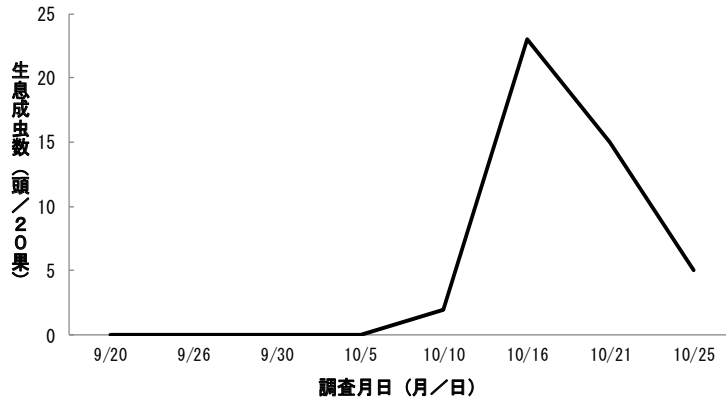


図4 極早生ウンシュウミカンにおけるハナアザミウマの生息数 (2019年)

4. ハナアザミウマに対する有効な薬剤

ディアナWDG及びスピノエースフロアブルを用いて現地ほ場で薬剤散布試験を行った結果、いずれの薬剤も防除効果が高いことが判りました（図5）。

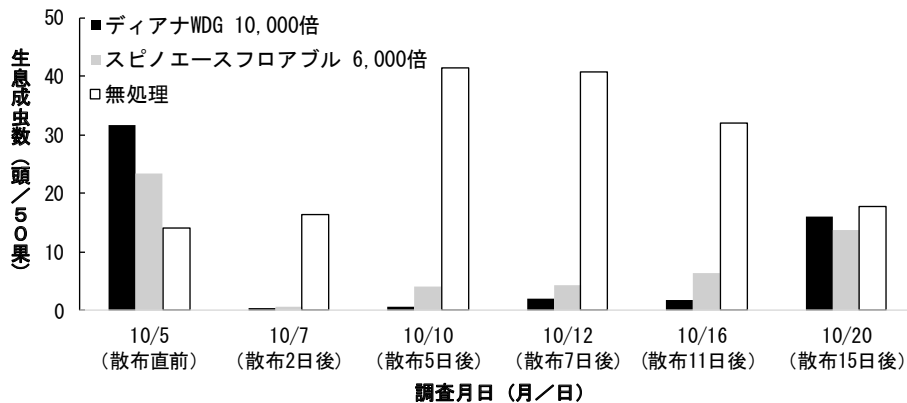


図5 ウンシュウミカンにおけるハナアザミウマに対する薬剤の防除効果 (2019年)

散布日：2019年10月5日 試験場所：有田川町下津野
供試品種：ゆら早生

5. まとめ

- 1) セイタカアワダチソウがほ場やその周辺でみられた場合は除草し、飛来源の除去に努めます。開花後に除草すると生息場所を失ったハナアザミウマが一斉にほ場内に飛来するおそれがあるため、開花前に除草します。
- 2) 果実が着色し始める頃から、樹の上部にある果実同士が接した部分を観察します。ハナアザミウマを発見したら速やかに防除を行います。
- 3) ディアナWDG（収穫前日まで、2回以内）やスピノエースフロアブル（収穫7日前まで、2回以内）による防除が効果的です。散布が収穫間近になることから薬剤の使用時期に注意が必要です。また、収穫日までに発生が増加がみられた場合は追加散布を行います。

低夜温管理でも収量が多いスターチス新品種

農業試験場暖地園芸センター 育種部 主査研究員 岡本 崇

1. はじめに

本県のスターチスは、出荷量が全国1位の品目で日高地域を中心に産地が形成されています。近年燃油価格が高騰する中で、加温コストを削減するための低夜温管理が普及し、需要期である3月までの収量が減少することが問題となっています。そこで、低夜温管理栽培においても収量性が高い新品種を育成したので紹介します。

2. 新品種の紹介

○「紀州ファインライラック」(写真1)

がく色が淡紫色で、花房は丸味がありやや小さめです。切り花長は対照品種の「アナブルー」や「紀州ファインラベンダー」よりも短く、茎径もやや小さいですが、花房数、分枝数は対照品種と同程度です(表1)。11月上旬から採花でき、切り花本数は対照品種の1.4～1.9倍と非常に多いです(図1)。

○「紀州ファインオーシャン」(写真2)

がく色が淡青紫色で鮮やか、花房が大きく、ボリュームがあります。切り花長は対照品種の「アナブルー」や「紀州ファインラベンダー」よりもやや短いです。花房数、分枝数は対照品種に比べて少ないですが(表1)、11月上旬から採花でき、切り花本数は対照品種の1.2～1.7倍と多いです(図1)。高温期に花房が白くなりやすいので、低温期中心の作型向きです。

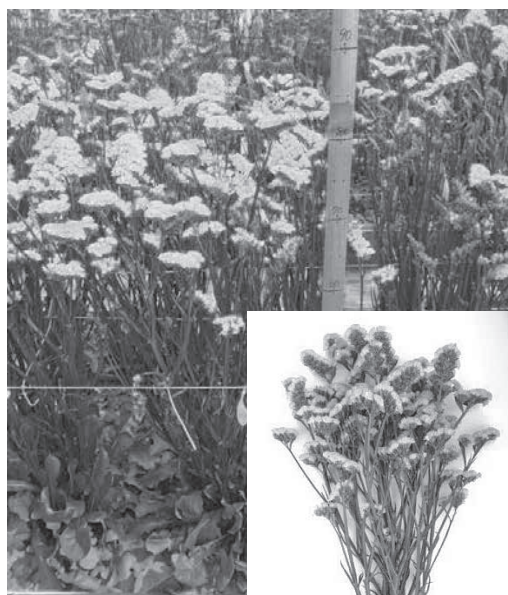


写真1「紀州ファインライラック」



写真2「紀州ファインオーシャン」

表1 「紀州ファインライラック」と「紀州ファインオーシャン」および対照品種の切り花品質

栽培年	系統・品種	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花房数 (個)
2016年	紀州ファインライラック	72.2	5.8	6.7	11.9
	紀州ファインオーシャン	71.6	5.3	5.2	8.2
	アナブルー	87.1	6.5	6.0	11.5
	紀州ファインブルー	84.1	6.1	6.0	10.4
2017年	紀州ファインライラック	77.9	5.9	6.7	12.5
	紀州ファインオーシャン	83.1	5.9	5.7	9.2
	アナブルー	91.1	6.6	6.5	12.8
	紀州ファインラベンダー	88.4	6.3	6.7	12.0
	紀州ファインブルー	96.3	7.4	6.3	11.2

注)2016年:9月7日に定植、切り花調査は10月31日～2017年3月16日まで 2017年:9月6日に定植、切り花調査は11月8日～2018年3月14日まで
定植から2週間株養成のため抽苔花茎を除去、冬季加温設定温度1℃で管理

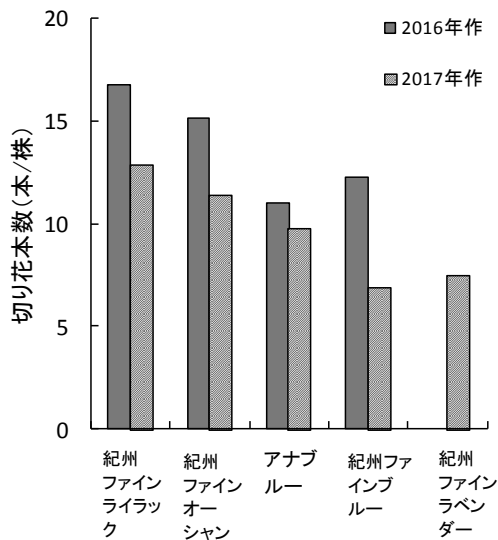


図1 「紀州ファインライラック」と「紀州ファインオーシャン」および対照品種の切り花本数

注) 栽培概要および調査期間は表1と同様

表2 ブルー系県オリジナル品種の特性比較

	草丈	花房の 大きさ	花房数	切り花 本数	秀品率
紀州ファインラベンダー	中～高	中	多い	中	中～高
紀州ファインブルー	高	大	多い	やや少	高
紀州ファインライラック	やや低	やや小	多い	多い	やや低～中
紀州ファインオーシャン	中	大	中	多い	中

3. おわりに

紀州ファインシリーズには、ブルー系品種として、この新品種のほか「紀州ファインラベンダー」「紀州ファインブルー」があります。この2品種は新品種と比べて切り花長が長く、ボリュームがありますが、切り花本数は少なくなります(表2)。経営目標に応じた品種を選定してください。

試験研究レポート

REPORT

ウメ「南高」のカットバックおよび摘心処理による青梅生産性の向上

果樹試験場うめ研究所 主査研究員 城村 徳明

1. はじめに

近年、和歌山県の青梅生産は、市場からの要望量を十分供給できていない状況が続いています。要因の一つとして、生産者の高齢化や担い手不足が考えられ、省力的かつ作柄の安定した青梅栽培技術の開発が急務となっています。

「南高」は樹高が高く管理作業において脚立等が必要となるため危険な作業となります。果樹の省力化技術として、主枝を一定の高さまで切り落とすカットバック処理（低樹高処理）が一般的に知られていますが、主枝を大きく切り下げるため徒長枝が多く発生し着果数が減少する傾向が強くなります。そこで、カットバック処理に伴う収量低下を解消するための摘心処理を追加し、省力かつ増収効果の得られる栽培技術を開発したので紹介します。

2. 試験研究の内容・結果等

(1) カットバック処理時の留意点および摘心処理の方法

樹高の高い「南高」にカットバック処理を施すと、着果位置の低下による収穫時間等の短縮が図られますが、樹容積と結果枝量が減少し収量が低下します。そこで、収量低下の補完を目的に春季に摘心処理を行い次年度の結果枝を確保した上で、その後カットバック処理を行うと収量を低下させずに低樹高かつ多収が見込める樹形にすることができます（図1）。

摘心処理は、4月中下旬に主枝や垂主枝など背部から直上発生した20～30cm程度の新梢を、基部から約10cm残して切り返し、更に5月中下旬に摘心部から発生した二次伸長梢を5～10cm残して再度切り返して行います。摘心処理を行うと、徒長枝の発生抑制、樹冠内部の受光改善による花芽の増加、結果枝増加による収量増、冬季のせん定作業の省力に繋がります。

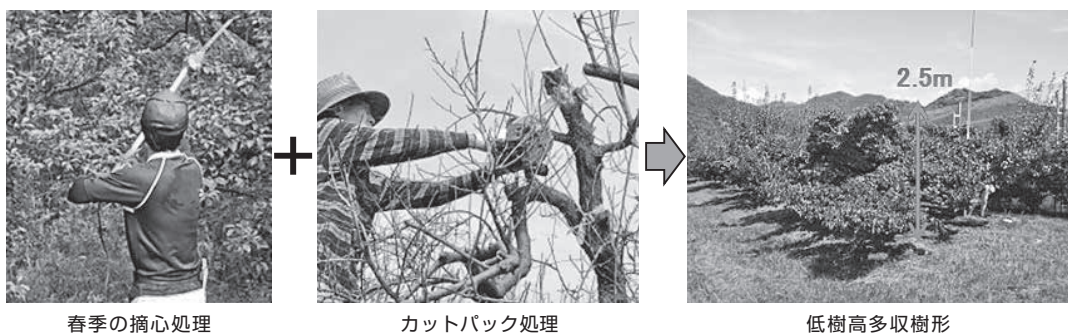


図1 「南高」低樹高多収樹形の処理手順

(2) カットバック+摘心処理による省力効果の解明

樹高約4.0mの「南高」14年生（2016年）を供試し、カットバック区とカットバック+摘心区を設定し、慣行区と比較しました。摘心処理は2016年春季から開始し毎年処理を行っています。カットバック処理は2016年11月下旬に行い、樹高を2.5mに切り下げました。

各処理区の樹体成長は、カットバック処理に摘心処理を組み合わせると、徒長枝の発生が少なく（データ略）、コンパクトな省力樹形になることが明らかとなりました。

各処理区の作業時間は、薬剤散布時間はカットバック処理を行うことにより短くなりました（図2）。摘心

時間はカットバック+摘心区のみで発生しました。せん定およびせん定枝片付け時間は、カットバック+摘心区で短くなりました。これらの作業時間の合計において、カットバックに摘心処理を組み合わせると作業時間が短縮（慣行区の70%）され、省力樹形であることが確認されました。また、せん定枝の重量は、カットバック+摘心区では徒長枝がほとんど発生しないため、慣行区やカットバック区の約10%の重量となりました（図3）。

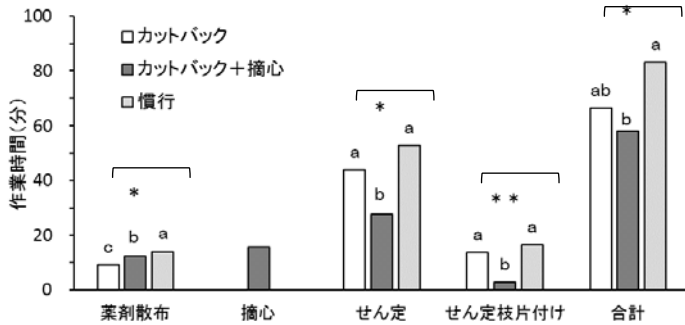


図2 各処理区の1樹あたり作業時間 (2019年)

Tukeyの多重比較により **は1%水準、*は5%水準で有意差あり

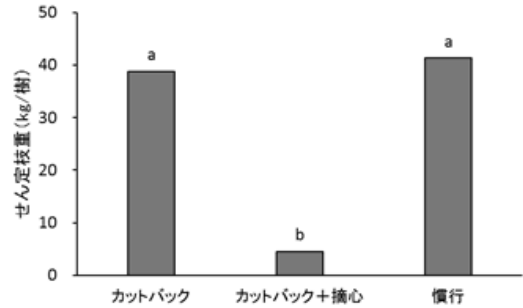


図3 各処理区のせん定枝重 (2019年)

Tukeyの多重比較により異符号間で1%水準で有意差あり

(3) カットバック+摘心処理が収量に及ぼす影響

カットバック処理と摘心処理を組み合わせると、収量は処理前の2016年は慣行区よりも少ない傾向でありましたが、処理3年後の2019年は処理前の約160%となり、慣行区よりも多い傾向となりました（図4、5）。カットバック処理のみでは、他の樹種でも報告があるように処理後2年間は収量が約45%減少しました。このことから、カットバック処理を行う場合は摘心処理の組み合わせが効果的です。

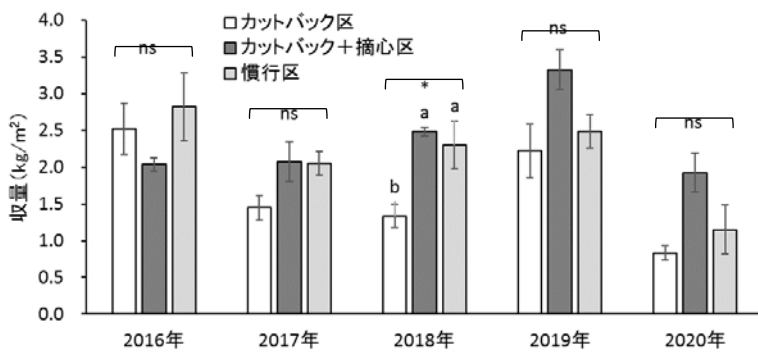


図4 各処理区の1m2あたりの収量

Tukeyの多重比較により*は5%水準で有意差があり、nsは有意差がないことを示す



図5 カットバック+摘心区の着果状況 (2019年)

3. まとめ

省力樹形であるカットバック処理と増収効果が期待できる摘心処理を組み合わせ、省力と収量性に優れた栽培技術を検討しました。その結果、カットバック+摘心処理により作業時間が短縮され、特に徒長枝の発生が少なくなったためせん定作業やせん定枝の片づけにかかる時間が大幅に短縮することが確認できました。

収量では、カットバック処理を行っても摘心処理を加えているため、処理翌年より低下することなく増加し、処理3年後には慣行樹よりも多くなりました。また、2020年産の和歌山県のウメ収穫量は2019年産より約3割減少（農林水産省統計）した不作の年でしたが、カットバック+摘心処理では慣行樹よりも多い収量となりました（図4）。このことから、カットバック処理に摘心処理を組み合わせることにより不作年でも影響を受けにくいと考えられます。

この低樹高省力多収栽培技術を導入する場合の留意点は、まず最初に①**春季の摘心処理**を行い翌年の結果枝を確保して下さい。その後、同年の②**秋冬季にカットバック処理**を行ってください。この順番で処理を行うと収量は減少することなく年々増加傾向となり、既存の樹を収量が優れる省力樹形とすることができます。

試験研究レポート

REPORT

和歌山県におけるスマート農業の取組

経営支援課 普及班 主任 土田 靖久

はじめに

和歌山県では、近年の農業者の高齢化や労働力不足などの生産現場での課題を解決するため、スマート農業への取組を推進しています。スマート農業はこれまで培われてきた農業技術に、ロボット技術やICT（情報通信技術）などの先端技術を取り入れた、新しい農業です。農作業の省力化や生産性の向上だけでなく、集積したデータを解析することで農作業の技術習得が容易となり、若者や女性など新たな担い手・労働力の確保にもつながることが期待されています。

ここでは本県で取り組んでいる「スマート農業加速化事業」および「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」について紹介します。

取組① スマート農業加速化事業

生産現場へのスマート農業の導入を加速化させるために、「知る」、「試す」、「導入する」のそれぞれの段階で農業者の方をサポートするメニューを設置しています。

○スマート農業フェア

スマート農業を広く知っていただくため、スマート農業フェアを紀北と紀南で開催しました。メーカーによる農機の展示やプレゼンテーション、スマート農業実践者や研究者による講演を行いました（出展企業：のべ38社、来場者：のべ約400名）。



スマート農業フェア（左：スマート農機の展示会、右：講演会）

○スマート農業実践塾

農業者の方が実際に農機を操縦し、軽労効果などを体感いただくことや、実践的な環境制御技術を学んでいただくことを目的に、スマート農業実践塾を開催しました。果樹では、各振興局管内のミカン、ウメ、カキ、

モモ園地において、農業用ドローンやリモコン式草刈機などの操作講習会を実施しました（のべ 214 名参加）。

施設園芸では 29 名の塾生（公募）を対象に、施設園芸コンサルタントによる環境制御技術の体系的な実践講義を 5 回実施しました。

参加した農業者の方からは、「思ったより操作が簡単」、「農薬散布用ドローンは使用できる農薬を増やしてほしい」、「環境制御装置を導入しても、どのように制御したら分からなかったが、講義のおかげで筋道が見えた」などのご意見・ご感想をいただきました。

これらのメニューは、来年度も実施予定ですので、興味ある方は是非ご参加ください。開催にあたっては、県庁研究推進室のホームページ等で随時ご案内します。



スマート農業実践塾（果樹コース 左：農業用ドローン、右：リモコン式草刈機）



スマート農業実践塾（施設園芸コース 左：現地実習、右：講義）




取組② スマート農業技術の開発・実証プロジェクト

果樹栽培は、樹体の形が複雑で、傾斜地園が多いこと、剪定などの栽培技術に熟練が必要で一般化が難しいなどの理由により、機械化があまり進んでいません。そこで国の事業「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」を活用し、ウメ専作農家およびウメとミカンの複合経営農家において令和元年から 2 年間、スマート農業技術を導入し、省力化作業体系の実証を行いました。ここでは、実証結果と今後の課題について報告します。

○実証内容

ウメおよびミカンについて、下記のスマート農機による作業時間短縮効果を検証しました。

ウメで検証した農機

除草の効率化	果実運搬の軽労化	選果作業の軽労化	かん水遠隔操作
			
リモコン式自走草刈機 三陽機器 AJK600	リモコン式自走運搬車 三晃精機 JS800C	パワーアシストスーツ パワーアシストインターナショナル	自動かん水装置 アースコンシャス アーススマートシステム

ミカンで検証した農機

除草の効率化	農薬散布の軽労化	果実運搬の軽労化	かん水遠隔操作
			
リモコン式自走草刈機 ササキコーポレーション RS400-2 M700	農薬散布用ドローン XAGJAPAN P20	リモコン式自走運搬車 三晃精機 JS800C	自動かん水装置 アースコンシャス アーススマートシステム

※ウメ園地でも実証を行い
複合経営で活用できるか検証

○検証結果と残された課題

検証の結果、下表に示すように、リモコン式草刈機では慣行の作業に比べて 20～31%、農薬散布用ドローンでは 54%、自動かん水装置では 83～90% の大幅な作業時間短縮が可能となりました。一方で、機械本体や維持費が高額であることに加え、各機械自体にも改良余地があることがわかりました。

これらの課題についてはメーカーに伝達し、機械の改良・開発につなげていきたいと考えています。



スマート農機の現地実証（上富田町 左：リモコン式自走運搬車、右：リモコン式自走草刈機）

スマート農機の導入効果と残された課題

	スマート農機名	作業名	導入効果	残された課題
ウメ	リモコン式自走草刈機 三陽農機 AJK600	除草	20~31%の作業時間削減	<ul style="list-style-type: none"> 刈り高が少し高い タイヤで踏んだ部分が少し刈り残る →刈り払い方法の改良が必要
	パワーアシストスーツ パワーアシスト インターナショナル	選果時のコンテナ運搬	疲労感は腰でやや軽減された	<ul style="list-style-type: none"> 太股、ふくらはぎで疲労感がやや増加 不要時にアシストが働く 長時間だと補助されない腕が疲労
ミカン	農業散布用ドローン XAG JAPAN P-20	病害防除	54%の作業時間削減	<ul style="list-style-type: none"> 登録農業が少ない メンテナンス料が高額
ウメ ミカン	リモコン式自走草刈機 ササキコーポレーション RS400-2 M700	除草	ミカン園作業道で7%の作業時間削減	<ul style="list-style-type: none"> ウメ園地で夏季の草丈が高い時期は過負荷による動作停止が多発 →パワー向上が必要
	自動かん水装置 アースコンシャス アーススマートシステム	かん水	83~90%の作業時間削減	<ul style="list-style-type: none"> 携帯3G電波が届かないと使えない →通信インフラの整備が必要
	リモコン式自走運搬車 三晃精機 JS800CR	収穫物運搬	5%の作業時間削減	<ul style="list-style-type: none"> 電動のため走行速度がやや遅い 凸凹があると走行の安定性に不安

最後に

スマート農業は、農業分野で問題となっている担い手不足を解決する手段として期待されています。しかし果樹ではスマート農業の導入が進んでいる水稻に比べて、作業内容が多様かつ形が複雑な樹体を扱うため、その実状に対応した機械が少ないため、開発が急がれます。さらに導入に適した園地改造や樹形の検討などが必要です。施設園芸では品目や地域に適した複合環境制御技術が未開発のため、今後環境データと生体データの解析手法の確立が必要です。また農業者の方への技術支援のためには指導技術者の育成も重要です。

今後これらの課題解決を関係機関と協力して進めるとともに、農機メーカーとも連携して、続々と開発されている新製品の検証を行い、より高い普及性を持つスマート農機の実演会や操作講習を通じて情報発信をしていきたいと思っております。

県農林大学校学生です。

～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

農学部 園芸学科



私は大阪府堺市出身です。

高校は大阪の農芸高校に通っていました。そこでは野菜の栽培、収穫した野菜を漬物などに加工したりと浅いですが、野菜について学ぶ機会がありました。

学んでいくうちに野菜について興味を持つようになったのをきっかけに和歌山県農林大学校に入学しました。

和歌山県農林大学校では、座学で学ぶだけでなく実習を通して実践的なことを学ぶこともできるので、農大での2年間を無駄にすることなく技術や知識をしっかりと身につけ、将来野菜の栽培に関わる仕事をするとときに生かしたいと思います。



私は有田川町出身で、家はミカンの兼業農家です。農林大学校を卒業した後は、営農指導員になりたいと考えています。

私は地元が好きです。中学生の頃からJrリーダーという活動に参加していて、町の祭りやイベントのサポートはもちろん、子供会で小学生たちを楽しませるような企画立案を中高生だけで行いました。このような活動を通し、地元で貢献できる仕事がしたいと考えていました。しかし、具体的な進路は決まっておらず、普通科の高校に進学しました。そして、農業と関わることなく過ごしていました。そんな私が農業に関心を持ち、進路を選んだきっかけとなったのが、農林大学校のオープンキャンパスでした。

地元で貢献するため、この2年間を有意義な期間にし、常に学びを意識して学校生活を歩んでいこうと思います。



私は海南市出身の前山卓巳といいます。

高校時代は、有田中央高校に行き、介護福祉士になりたくて勉強をしていました。しかし、実習などを通して、自分に合わないと思い諦めました。そのあとは、やりたいこともなく過ごしていました。それから何をしようかと考えていく中、実家の農業の手伝いや兄の勧めもあり、農林大学校への進学を決めました。

農林大学校では、果樹について勉強していきたいと思っています。特に自分の家で育てているみかんや梅の剪定、農薬の選び方や散布の方法、選別の方法を学びたいです。この2年間で、実家の農業がもっと良くなるように技術や知識を身につけて頑張りたいです。



私は有田川町出身です。家はみかん農家を営んでおり、将来は実家を継ぎたいです。そのために農林大学校に入学しました。私は果樹コースを専攻しており、その実習の中で、みかんを栽培するための知識や技術を学んでいきたいと思っています。また、座学では特に資格習得に向けてがんばりたいです。

将来、自分の力になる有意義な2年間となるよう頑張ります。



松野 慎



松比良 大亮

私の出身は兵庫県伊丹市です。高校時代は普通科だったため、農業に触れる機会は特にありませんでした。ただ、中学生の時に農業体験をしていたことがきっかけで自然や生物に関する勉強をし、農業に関係する仕事に就きたいと思い、農林大学校に入学しました。

入学してからは、果樹コースを選択し、様々な種類の果樹について勉強しています。この2年間でたくさんの資格を取得し、将来は立派な農家になれるように頑張っていきたいです。



私が、農林大学校で学ぼうと思った理由は、母校の紀北農芸高等学校で、農家が減って、耕作放棄地が増えていると知り、どうにかしたいと考えたからです。

卒業後は、JAに就職したいと思っています。家では柿や八朔など果樹を栽培しているので、働きながら家業を手伝い、将来的には祖母の土地で果樹の栽培を始めたいと思っています。

そのために農大では、果樹のことを学びたいと思っています。



森 脇 諒



農学部 アグリビジネス学科



柿本 幸星

私は、紀の川市出身です。私が農業を勉強しようと思ったきっかけは、父が専業農家になったことです。農大で勉強や実習をする中で、農業の大変さや体力がいることを実感しました。それに勝る作物の成長や収穫の喜びも知ることができました。農家体験研修では、ユリ農家で栽培と出荷調整について勉強させていただきました。

将来は、ブランド化できるような商品を自分で栽培したいです。そのときは、絵を描くことが趣味なので、自分の絵をパッケージに使いたいです。そのために、スーパーや直売所で商品のパッケージがどのようなものか研究したり、デザインも勉強したいです。

和歌山県を代表するブランド商品を作ることが私の目標です。

私の出身は大阪府吹田市で普通科の高校に通っていました。
両親ともに非農家です。祖父母が友人の畑を手伝っていたので、一緒に手伝いに行くことが何度かありましたが、私には遊び程度の感覚でした。

農業と無縁に近かった私が農業の道を目指したのは、母の勧めでした。
将来は、「人や社会に貢献し人を笑顔にしたい。」という思いがあったので、作物を通して人や食卓を笑顔にできる農業に魅力を感じています。

今は、果樹コースを専攻しています。将来は農業に携わる仕事に就き、作物を通して人の笑顔を作っていきたいです。

そのために、初心を忘れず日々の実習や座学を頑張ります。



白江 優作



高橋 優華

私は大阪府の農芸高校資源動物科に通っていました。

そこで、鶏に興味を持ったのがきっかけとなり、将来は鶏に関わる仕事をしたいと思いました。鶏の魅力を多くの人に知ってもらいたいので、卵を使った加工品の販売なども行いたいです。

このことから、農業の経営や農産物の加工について学べるアグリビジネス学科に入学しました。

2年間しっかり勉強して将来に活かしたいです。



私は紀の川市出身で、実家は非農家です。

幼い頃から果物・野菜の加工品を作ったり、栽培するのが大好きでした。紀北農芸高等学校では、農業のことや食品加工の知識や技術を3年間学びました。高校で学んできた農業や食品加工の事をもっと知りたい・学びたいと思い、農林大学校へ進学することを決意しました。

将来の事はまだ具体的には決めていませんが、高校と農大での5年間で学んだことを活かされる職業に就きたいと思っています。



安村 萌生

地域の逸品!!

緑色を保持した キウイフルーツ加工品

紹介者

紀の川市 指導農業士

中 浴 泉



1. 商品の紹介

●特徴

加熱殺菌後も鮮やかな緑色を保持したキウイフルーツ（ピューレ、ダイスカット）は、ケーキ、菓子、ドレッシング、飲料、ジャム等に使える加工原料で、キウイフルーツ本来の緑色、風味を楽しんでいただけます。

●作られた背景

八旗農園では桃以外にも地域特産物を使った加工品開発に力を入れており、最近では、キウイフルーツが若者にも人気が高く機能成分が豊富であることや、紀の川市が県下最大の産地であるという強みを生かして加工品の開発に力を入れています。しかし、キウイフルーツはピューレ加工等加熱殺菌すると直ぐに緑色から褐色に変色してしまいます。恐らく皆さまも実感されたことがあると思いますが、変色対策がキウイフルーツ加工品開発の一番の問題であり、販路拡大の課題となっています。

●まつわるストーリー

和歌山県は、キウイフルーツ生産量全国3位であり年間2,740トン（H30農林水産統計）が生産されています。地元紀の川市では県下約60%の栽培面積があります。国産キウイフルーツ算出額は93億円（H30生産農業所得統計）あり、加工品市場は10%の10億円市場と考えることができます。実際は、まだまだ成長途中ですが、加工品市場は年々増加しているため将来的にはさらに大きな規模になると予想されます。幸い和歌山県工業技術センター主催、農産物有用活用研究会に参加していたため、課題を解決すべく和歌山工業技術センター、和歌山工業高等専門学校の力を借りて「中小企業元気ファンド事業」を活用して競争力の高い緑色を保持したキウイフルーツ加工品の完成に至りました。まずは地元から全国に向けて販売展開を目指します。

2. お問い合わせ先等

株式会社八旗農園（はっきのうえん）
〒649-6122 紀の川市桃山町元 266-3
TEL 0736-79-3138 FAX 0736-79-3137
E-mail hakki@bh.wakwak.com



地域の逸品!!

有田市認定みかんジュース



「K&K Citrus Farm」プレミアムみかんジュース

紹介者

有田市 地域農業士

成川 浩二

●商品の紹介

本年度より販売開始いたしました「K&K Citrus Farm」のプレミアムみかんジュースは、有田市みかん官能審査会で合格した認定みかんの「ゆら早生」のみを使用しております。

この「ゆら早生みかん」の皮を剥いて中身だけを搾っているのので、みかんをそのまま飲んでいる感じがするとおもいます。品質の良いみかんがあるからこそ、高品質のみかんジュースができます。

完熟にこだわり、一本一本+の樹を丁寧に栽培しております。ジュースを飲んで美味しいと感じてもらえたら是非、生の果実も味わってほしいです。



プレミアムみかんジュース

市も認めた高品質なジュース

プレミアムみかんジュースは有田市の原産地呼称管理制度において、厳格な基準をクリアし、高品質で本当に美味しい有田みかんジュースである「認定みかんジュース」に認定されています。

この制度では原材料を有田みかんのみとした、無添加、100%ストレートのジュースを食のプロが審査（官能審査）し、認定しています。プレミアムみかんジュースは令和2年度の審査会でさらに高品質なものに与えられる審査委員奨励品に認定されました。



「浜のうたせ」での販売

<https://www.city.arida.lg.jp/sangyoshigoto/gensanchi/1002053/index.html>



●お問合せ先

K&K Citrus Farm

〒649-0303 和歌山県有田市新堂 724

TEL/090-9994-4480 FAX/0737-82-55678

<http://kkcitrusfarm.raku-uru.jp/>

地域の逸品!!

農業士女性部会員による白干梅、梅酢を使った梅料理レシピ！

紹介者

田辺市 指導農業士

橋 坂 佐都美

1. 商品の紹介

西牟婁地方農業士会女性部会では、8年程前から梅を使った手軽に出来る料理レシピ作りに取り組んでいますのでその一例を紹介します。

当会では、学校を訪問し、梅ジュースづくり体験等の梅の消費PR活動を行っています。その際、手軽に出来て、美味しい梅料理を紹介したいと部会員で話し合い、レシピ作りを始めました。レシピ作りでは、何度も出来栄や味を確かめ、オリジナルのレシピとなるように心がけています。

梅には、体に良い様々な成分が含まれています。

白干梅は、完熟梅を塩で漬けてから天日干ししたもので、塩分が20%程ありますが、調味料の代わりに使うことも出来ます。またクエン酸もたっぷり含まれていて、インフルエンザの予防や疲労回復など多くの効果を持っています。

これまで、学校での活動の他、地域の女性農業者を対象とした研修会でレシピを紹介したり、田辺市農林水産業祭りでは、毎年、実際にレシピの料理を作り、販売も行っています。

まだまだ品数は少ないですが、もっとレシピの内容を充実させて、「梅料理冊子」を作りたいと考えています。

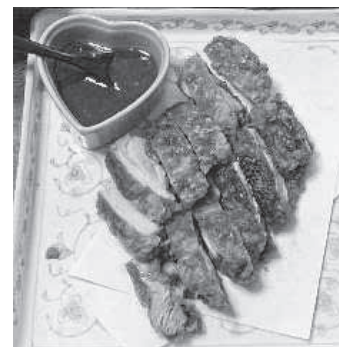
ぜひ、みなさんも梅料理にチャレンジしてみたいか
がでしょうか！！

2. お問い合わせ先等

西牟婁振興局農業水産振興課

普及グループ 農業士担当

(電話) 0739-26-7941 (直通)



パリパリチキン梅だれあえ

パリパリチキン梅だれあえレシピ

【材料】(4人分)

鶏もも肉	2枚
梅酢	大さじ2
片栗粉	適量(多め)
米油	適量
梅だれ	
白干梅	2粒
米酢	大さじ2
砂糖	大さじ2
ごま油	小さじ1

【作り方】

1. もも肉は水でサッと洗い、水気をふき取り、皮をフォークで数か所穴をあける。
2. もも肉に梅酢をふりかけ、1分間もみ込む。
3. 片栗粉をしっかりつけて、両面がきつね色になるまで米油で揚げ焼く。
4. 梅干しの種をとり、包丁でたたき、梅だれの材料を合わせ、3にかける(量は好みで)

農業士認定事業について

REPORT

県農林水産業のリーダーを認定

和歌山県農林水産部経営支援課

2月9日、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々に対し、農業士、林業士、漁業士の認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は799名となりました。

例年は認定式を実施し、知事から認定証の交付及び感謝状の贈呈をしていましたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、各振興局から本人にお届けしました。

今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです（敬称略）。

農業士認定者の皆様 55名

指導農業士認定者 10名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
土田 耕司	紀の川市	佐竹 英信	御坊市
田中 里美	橋本市	井本 淳也	御坊市
川瀬 顕作	湯浅町	安井 章	みなべ町
藤岡 良子	有田川町	泉 雅晴	田辺市
堀井 博代	御坊市	原 拓生	田辺市

地域農業士認定者 31名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
居垣 秀隆	紀の川市	主井 優好	湯浅町
上田 清之	紀の川市	谷口 洋平	広川町
杉本 和隆	紀の川市	大西 健太	広川町
西 歩	岩出市	上野 博行	有田川町
下垣内 泰貴	かつらぎ町	尾崎 行雄	有田川町
杉浦 裕介	有田市	井口 拓哉	有田川町

地域農業士認定者（つづき）

氏名	市町村名
井本 順子	御坊市
三木 里恵	御坊市
最明 慎治	御坊市
森田 政博	御坊市
佐藤 豪	印南町
村上 貞男	印南町
杉本 和洋	印南町
中松 郁夫	みなべ町
小田 修	みなべ町
伊奈 稔勝	日高川町

氏名	市町村名
三原 康弘	日高川町
亀井 浩	日高川町
橋本 祥吾	日高川町
山本 鉄也	田辺市
米田 壮伺	田辺市
天野 佳友	田辺市
平田 卓巳	田辺市
津村 和彦	すさみ町
安田 裕志	那智勝浦町

青年農業士認定者 14名

氏名	市町村名
棚野 雄平	和歌山市
林 真司	紀の川市
谷 畑 翔	有田川町
山下 広太郎	有田川町
假家 達矢	御坊市
中田 賀友	御坊市
西岡 晋平	御坊市

氏名	市町村名
廣野 宜伸	印南町
中 民 徳	印南町
形部 拓志	みなべ町
形部 博章	みなべ町
團栗 義浩	みなべ町
山本 宗平	田辺市
栗野 稔近	那智勝浦町

感謝状を受けられた皆様 21名（農業関係）

氏名	市町村名	氏名	市町村名
橋 詰 孝	海 南 市	中 井 昭	み な べ 町
廣 田 哲也	橋 本 市	佐々木 龍雄	み な べ 町
尾 西 智子	か つ ら ぎ 町	鶴 尾 安代	日 高 川 町
御 前 学司	有 田 市	中 村 幸男	日 高 川 町
堀 川 幸俊	有 田 市	木 村 則夫	田 辺 市
的 場 敏明	有 田 川 町	志 波 元昭	田 辺 市
的 場 清	有 田 川 町	廣 畑 幸男	田 辺 市
林 幹 雄	有 田 川 町	田 中 幹 雄	田 辺 市
西 岡 純一郎	御 坊 市	中 村 誠一	那 智 勝 浦 町
最 明 あけみ	御 坊 市	橋 爪 和 雄	串 本 町
堀 池 邦 彰	印 南 町		

インターネットを利用した部落差別の解消を推進します ～「和歌山県部落差別解消推進条例」を一部改正しました～

和歌山県では、令和2年3月24日から条例を施行し、行政、県民、事業者等が一体となって、部落差別のない社会の実現を目指して取り組んでいます。

しかしながら、インターネット上に同和地区やその関係者を忌避するといった部落差別の書き込みなどがあり、県が把握した部落差別の書き込みについてはプロバイダ等に対して削除依頼を行っていますが、削除されていないものもあります。

このような状況を踏まえ、より一層、インターネットを利用した部落差別の解消を推進するため、条例を改正し、令和2年12月24日から施行しています。

和歌山県では、引き続き、部落差別の解消のための教育・啓発や、県民の皆さんからの相談への対応などに取り組んでいます。

県民の皆さんには、インターネット等により部落差別を行うことは決して許されないものであるという認識のもと、部落差別の解消のための取組をお願いします。

【同和問題（部落差別）の相談窓口】

- ・（公財）和歌山県人権啓発センター
TEL 073-421-7830 FAX 073-435-5421
 - ・和歌山県人権政策課
TEL 073-441-2563 FAX 073-433-4540
- ※各振興局総務県民課でも相談できます。

【お問い合わせ先】

和歌山県人権政策課
TEL 073-441-2561
FAX 073-433-4540

-STOP!コロナ差別-誹謗中傷等が行われない社会の実現を目指します ～「和歌山県新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷対策条例」を施行しました～

和歌山県においても、新型コロナウイルスに対する不安やおそれから、新型コロナウイルス感染症の感染者やその家族、医療従事者などへの誹謗中傷や風評被害、SNS等による感染者などの特定といった被害が発生しています。

このような状況を踏まえ、本県では、誹謗中傷等が行われない社会の実現を目指し、令和2年12月24日から「和歌山県新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷等対策に関する条例」を施行しています。

和歌山県では、新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷等をなくすための教育・啓発や、県民の皆さんからの相談への対応などに取り組んでいます。

県民の皆さんには、不確かな情報や根拠のない噂に惑わされることなく、県や市町村などの正しい情報に基づき、新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷等を行わないよう、人権に配慮した行動をお願いします。

【コロナ差別相談ダイヤル（和歌山県人権政策課）】

TEL 073-441-2563 FAX 073-433-4540
※（公財）和歌山県人権啓発センターや
各振興局総務県民課でも相談できます。

【お問い合わせ先】

和歌山県人権政策課
TEL 073-441-2561
FAX 073-433-4540

クビアカツヤカミキリの早期発見！ すもも・もも・うめの樹が食害される！

- 令和3年2月現在、かつらぎ町、橋本市、紀の川市、岩出市のすもも、もも、うめでクビアカツヤカミキリによる被害を確認しています。
- 春先から幼虫の活動期に入りフラスの発生を見つけやすくなります。生産者の方々は、常に園地をよく見回り、フラス（虫糞と木くずが混ざった物）を発見したら最寄りの振興局またはJAに連絡（発生地域を把握）するとともに、防除対策を行うようお願いします。



株元に溜まったフラス



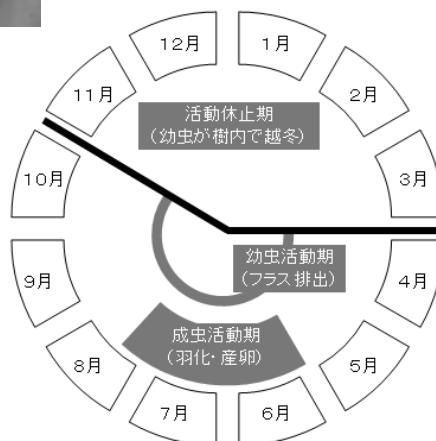
ミンチ状のフラス



じっくり、
近寄って
チェック



幼虫は樹体内を食害し、加害された樹は、枯死に至ります。他県では、1樹あたり280頭確認された事例があります。



11月頃まで活動！（フラス排出部分を探しましょう）
（大阪府「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参考に作成）

成虫は体長2.5～4.0cmで6～8月に発生します。光沢のある黒色で、前胸（クビ）は赤色です。繁殖力が強く、1頭あたり300～400個産卵し、1,000個以上の産卵事例もあります。

防除対策

- 成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に、被害木を伐採、破碎あるいは焼却するなど、適切に処分します。伐採できない場合は4mm目合いのネットを2重に巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に拡散するのを防ぎます。
- スプレー缶型の農薬を注入する場合は、太めの針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出し、ノズルがフラスで詰まらないよう薬液を出しながら注入します。
- 針金が幼虫まで届く場合は、突き刺して殺虫することが重要です。

本虫は**特定外来生物**に指定されているため、保管や移動に規制がかかります。

(参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (65 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

令和3年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	144 名 (うち女性	31 名)
地域農業士	531 名 (うち女性	47 名)
青年農業士	124 名 (うち女性	1 名)
合 計	799 名 (うち女性	79 名)



表紙の人

紀の川市 青年農業士

稲垣 吉一さん

稲垣さんは、紀の川市桃山町で桃 120 a を栽培する桃専作農家です。
機械化により省力化に取り組む他、桃等の加工品づくりの取り組み販売を行っています。

和歌山の農業士 第 16 号

発行日：令和3年3月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

